介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名：株式会社メディカルライフケア

研修事業の名称：介護職員初任者研修(通信)

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	2 時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研修の目的について説明する。 ・介護保険サービス、介護保険外サービスの内容について説明する。 <p><演習></p> <p>受講生もすでに介護の仕事に就いている者や、家族の介護を経験している者もいる中、介護サービスにはどのような種類があるかグループになって討論、情報交換</p>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4 時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設など、それぞれの仕事内容について説明する。 ・講師の現場経験を踏まえながら居宅や施設のサービス提供現場に関するイメージを身に着けさせる。 ・ケアプランの位置づけからサービス提供までの業務の流れを説明しチームアプローチ、多職種、介護保険外サービスを含む地域の社会資源との連携について説明する。
合計	6 時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	5時間	1.5時間	3.5時間	第1回 問題1 ～ 問題9	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護者が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを踏まえ、介護、福祉サービスの提供にあたっての基本的な考え方としくみについて説明する。 ・介護分野におけるICF、QOL、ノーマライゼーションの考え方を正しく理解できるよう説明する。 ・身体拘束の禁止、高齢者虐待防止のための法律、高齢者の養護者支援について説明し、対応方法を指導し、高齢者虐待に対する理解を促す。 ・個人の権利を守る制度として、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活支援事業について説明する。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な虐待のケース・スタディを用いてグループで検討を行う。 <p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権と尊厳の保持、医療福祉分野での人権、QOLの考え方、ノーマライゼーションについての理解・高齢者虐待と虐待の種類、ICFに関する事
②自立に向けた介護	4時間	0時間	4時間	第1回 問題10 ～ 問題19	<p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援に関する事 ・自己選択・自己決定に関する事 ・介護予防に関する事
合計	9時間	1.5時間	7.5時間		

3 介護の基本 (6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	3 時間	3 時間	0 時間		<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴から、訪問系と施設系の違い及び地域包括ケアシステムの方向性について説明。 ・介護職に求められる役割と専門性について説明。 ・重度化防止、遅延化の視点、利用者主体の視点、自立した生活を支えるための援助、根拠に基づく介護、チームケアの重要性、事務所内及び多職種から成るチームについて説明。 ・異なる専門性を持つ多職種との連携とチームケアの重要性について説明。 ・介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームを組んで医療・看護の双方から利用者を支えるのには、どのような意義があるのか、またそれぞれの専門性を活かすことにより効果的なサービスが提供できること、そしてチームケアの役割分担を説明。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームケアの重要性や連携について学習したことを踏まえ、効果的な役割分担についてグループで討議。 ・家族による介護と専門職による介護の違いをグループで討議。
②介護職の職業倫理	1 時間	0 時間	1 時間	第 1 回 問題 20 ～ 問題 23	<p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の職業倫理。 ・利用者のプライバシーに関する留意点。 ・介護福祉士の職業倫理に関する事。
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1 時間	0 時間	1 時間	第 1 回 問題 24 ～ 問題 30	<p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職における安全確保に関する事。 ・事故予防・安全対策に関する事。 ・感染症予防に関する事。
④介護職の安全	1 時間	0 時間	1 時間	第 1 回 問題 31 ～ 問題 37	<p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の安全衛生に関する事。 ・介護職員のこころの健康管理に関する事。
合計	6 時間	3 時間	3 時間		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	4 時間	1.5 時間	2.5 時間	第 1 回 問題 38 ～ 問題 40	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設の背景と目的、動向、基本的な仕組み、ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括センターの設置、地域包括ケアシステムの推進など、介護保険制度についてテキストに沿いながらポイントを説明。 ・仕組みの基礎的理解として、保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定の手順についてテキストに沿いながらポイントを説明する。 ・介護保険制度を支える資源、組織・団体の機能と役割について、財政負担、指定介護サービス事業者の指定についてテキストに沿いながらポイントを説明。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度、各サービスや地域支援の役割についてグループで討議。 <p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設に関する事。 ・介護保険法の関するに関する事。 ・要支援、要介護認定に関する事。 ・介護財源に関する事。 ・介護保険給付に関する事。 ・介護サービスの事業者の指定、後進に関する事。 ・介護保険給付以外の事業に関する事。 ・介護保険のしくみに関する事
②医療との連携とリハビリテーション	2 時間	0 時間	2 時間	第 1 回 問題 41 ～ 問題 49	<p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医行為に関する事。 ・訪問看護に関する事。 ・リハビリテーションに関する事。 ・施設における看護と介護の連携に関する事。
③障害者自立支援制度およびその他制度	3 時間	0 時間	3 時間	第 1 回 問題 50 ～ 問題 61	<p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉制度の概念。 ・ICF の制度、障害者総合支援法の目的、サービス体系、障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解。 ・個人情報保護法。 ・障害者福祉サービス、地域生活支援事業、成年後見制度、日常生活自立支援事業、生活保護の種類的事。
合計	9 時間	1.5 時間	7.5 時間		

5 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	3 時間	1.5 時間	1.5 時間	第 2 回 問題 1 ～ 問題 7	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義、目的、役割について説明。 ・相手のコミュニケーション能力に対して理解や配慮が必要である点、傾聴、共感や受容、気づきなど介護職に求められる姿勢とその大切さについて説明する。 ・言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて説明。 ・コミュニケーション技法、利用者と家族とのコミュニケーション、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションについて学ぶ。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態・状況による対応を理解するため、受講者が 2 人一組で、それぞれ利用者役と介護者役となり、ロールプレイングによるコミュニケーション技術を体験する。それを受けて、講師が助言し統括。 <p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己覚知について ・介護現場におけるコミュニケーション ・非言語的コミュニケーションについて ・利用者、家族とのコミュニケーションについて ・利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術
②介護におけるチームのコミュニケーション	3 時間	1.5 時間	1.5 時間	第 2 回 問題 8 ～ 問題 15	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録における情報の共有化、報告・連絡・相談・コミュニケーションを促す環境について、テキストに沿いながらポイントを説明。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告、連絡、相談について事例を基にグループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。 <p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の意義、目的、書き方、留意点に関する事。 ・事故報告書に関する事。 ・報告、連絡、相談に関する事。 ・居宅サービスにおけるサービス担当者介護、ケアカンファレンスに関する事。
合計	6 時間	3 時間	3 時間		

6 老化の理解 (6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うこころとからだの変化と 日常	3 時間	3 時間	0 時間		<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う防衛反応(反射)の変化と喪失体験を心身の変化の特徴として説明。 ・咀嚼機能の低下、筋、骨、関節、体温維持機能の変化など、身体的、精神的機能の変化とそれに伴う日常生活への影響を説明。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「加齢・老化に伴う心身の変化」について、グループで整理する。グループからの発表を受けて、講師が補足し総括。老化は、私たち(受講者)一人ひとりの心身にもみられる身近なテーマであり知識である事にも気づいてもらい、今後とも理解と関心を高めることを助言する。
②高齢者と健康	3 時間	0 時間	3 時間	第 2 回 問題 16 ～ 問題 26	<p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の健康に関する事。 ・高齢者の意識障害に関する事。 ・老化に伴う疾患に関する事。 ・廃用症候群が引き起こす症状に関する事。 ・高血圧症に関する事。 ・老人性高血圧に関する事。 ・老化に伴う脳血管疾患に関する事。
合計	6 時間	3 時間	3 時間		

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く状況	1時間	0.5時間	0.5時間	第2回 問題 27 ～ 問題 29	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換する事の意義。 ・問題視する事ではなく、人として接することを理解する。 ・できないことではなく、できることをみて支援する事を理解する。 <p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの視点より、自由を保障する事、物語に参加する事、共感的に受け入れる事、寄り添い平等な関係を築く事、本人の思いに気付く事。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	1時間	1時間	第2回 問題 30 ～ 問題 36	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症と物忘れの違いについて ・認知症に類似した、せん妄とうつ病について ・認知症の疾患の原因となる主な疾患に関する事。 <p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の原因疾患とその病態の事。 ・原因疾患別のケアのポイント ・健康管理における様々な療法
③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2時間	1時間	1時間	第2回 問題 37 ～ 問題 42	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状と行動、心理症状(BPSD)の特性、生活環境での改善について学習すると同時に、認知症の利用者へのふさわしくないケアについても学習。 ・認知症の進行にあわせ、表情、視線、姿勢などから相手の気持ちを推察し、相手の世界に合わせる援助方法。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「帰りたい」という認知症の人の行動から、思いを聞き出す、質問を組み立てる対応法等。 <p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人の心理及び行動の特徴、・認知症と生活環境、・認知症の人への対応
④家族への支援	1時間	0.5時間	0.5時間	第2回 問題 43 ～ 問題 45	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族へのレスパイトケアについて ・家族へのエンパワメント <p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族への支援の方法 ・介護保険サービスの利用によるレスパイト
合計	6時間	3時間	3時間		

8 障害の理解 (3時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削 課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	1.5 時間	1.5 時間	0 時間		<講義> ・ICF の考え方と分類について ・障害者福祉の基本理念。 ・ノーマライゼーションの概念。 ・各障害の関連法。 <演習> 事例を示しノーマライゼーションの概念についてグループ討議
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1 時間	0 時間	1 時間	第 2 回 問題 46 ～ 問題 51	<添削課題> ・身体障害について ・知的障害について ・精神障害について ・発達障害について
③家族の心理、かかわり支援の理解	0.5 時間	0 時間	0.5 時間	第 2 回 問題 52 ～ 問題 54	<添削課題> ・障害の受容支援の事。 ・介護負担の軽減。
合計	3 時間	1.5 時間	1.5 時間		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)

	項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
基本知識の学習	①介護の基本的な考え方	2 時間	1 時間	1 時間	第 3 回 問題 1 ～ 問題 5	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・我流介護を排除した、本来行われるべき ICF の視点や理論と法的根拠に基づいた介護について説明。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供のために必要な視点や理論や根拠にはどのようなものが考えられるかグループで討議 <p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づく介護のこと ・法的根拠に基づく介護のこと
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3.5 時間	0 時間	3.5 時間	第 3 回 問題 6 ～ 問題 15	<p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記憶の基礎知識に関すること ・感情の基礎知識に関すること ・マズローの欲求階層説に関すること ・障害への心理的反応に関する問題 ・障害受容に関する問題
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4.5 時間	0 時間	4.5 時間	第 3 回 問題 16 ～ 問題 32	<p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造及び機能に関すること ・バイタルサインに関すること ・骨、関節、筋の基礎知識 ・末梢神経系に関すること ・自律神経機能に関すること
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	6 時間	5 時間	1 時間	第 3 回 問題 33 ～ 問題 37	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事を行う際に行うべき、利用者の多様な生活習慣、価値観、生活歴に基づいた主体性、能動性を引き出す自立支援とその際の予防的な対応について。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた食材の中から食事メニューを作成し、利用者の生活習慣、価値観、生活歴を読み取り、導かれた主体性や能動性を引き出す自立支援と予防的対応を討議する。 <p><添削課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事と生活の理解に関すること ・家事援助と生活援助に関すること ・家事援助の留意点に関すること

⑤快適な居住環境整備と介護	3 時間	3 時間	0 時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内に多い事故とバリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与の講義を通じて、介護における居住環境の説明 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者とその居住環境の具体例を提示し、住宅内でのリスクをグループごとに検討し、それに対するリスクマネジメントを発表
⑥整容に関連したことからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	6 時間	0 時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身支度、整容行動の意義・効果について説明する。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・座位での衣服着脱の一部介助(片麻痺)(上下)(前開き・かぶり) ・ベッド上での衣服着脱の介助(片麻痺)(上下)(前開き・かぶり・浴衣)
⑦移動・移乗に関連したことからだのしくみと自立に向けた介護	12 時間	12 時間	0 時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動や移乗に関する知識を、テキストに沿いながら説明をする。 ・様々な移動や移乗に関する福祉用具(車いす等)とその活用方法について、テキストに沿い、実物を用いながら解説する。 ・ボディメカニクスの基本原理、重心、重力の働きを理解し、利用者と介護者双方が安全で安楽な移動や移乗の方法について学ぶ。 ・褥瘡の原因や予防について学ぶ。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体位変換 「仰臥位から側臥位へ」「側臥位から端座位へ」 「端座位から立位へ」 ・杖歩行 平地歩行で3動作歩行と2動作歩行 段差越えと階段の昇降 ・ベッドと車いす間の移乗の介助 「ベッドから車いすへの移乗の介助」「車いすからベッドへの移乗の介助」 ・車いすを押し介助 「段差越え」「坂道の上下り」「エレベータ」 ・視覚障害者の歩行介助、肢体不自由者の杖歩行介助

<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>6 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事をすることの意味やそのケアに対する利用者の意識、低栄養・脱水のもたらす弊害、食事と姿勢の関係や咀嚼・嚥下のメカニズム、個々の好みや空腹感、満腹感の感受性について説明。 ・時間や場所などの整備環境、福祉用具の活用と介助方法、誤嚥性肺炎の予防、食後の口腔ケアについて説明。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・座位での食事介助(一部介助) ・ベッド上での食事介助(全介助) ・視覚障害のある人の食事介助 ・口腔清掃の介助
<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>6 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心、身体の清潔を保つ意義、遠慮への配慮、体調の確認などの事前準備から身体状況の確認や室内環境の調整、使用物品の準備とその方法 ・身体の拭き方や支え方などの全身清拭、目、鼻腔、耳、爪の清潔方法、臥床状態での陰部の洗浄、手浴、足浴、洗髪について説明。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身浴と浴槽の出入りの介助(一部介助) ・ベッド上及び座位での手浴と足浴 ・ベッド上での洗髪の方法 ・上半身及び下半身の清拭
<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>6 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の心理的、生理的、社会的意味、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、ケアを受ける際のプライド、羞恥心への配慮、プライバシーの確保と利用者の精神的負担、生きる意欲の影響について説明。 ・おむつ使用の判断と使用における弊害、便秘の予防について説明。 <p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドからポータブルトイレへの介助 ・ベッド上でのおむつ交換 ・差し込み便器、尿器での介助

	⑪睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6 時間	4.5 時間	1.5 時間	第 3 回 問題 38 ～ 問題 46	<講義> ・睡眠時における安楽な姿勢と褥瘡予防、温度、湿度、光、音、室内環境を含めた安眠のための介護の工夫を説明。 <演習> ・ベッドメイキングの方法 ・シーツのたたみ方 <添削課題> ・睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法
	⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	2 時間	1.5 時間	0.5 時間	第 3 回 問題 47 ～ 問題 50	<講義> ・終末期のとらえ方を学ぶ。 ・終末期から死までの身体機能の変化について理解し、状況に合わせた対応を学ぶ。 ・死に直面したときの人の心理状況について理解し、こころの変化の受け止め方を学ぶ。 <演習> ・尊厳のある死についてグループで討議 <添削課題> ・終末期に関する基礎知識 ・生から死への過程
生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解	2 時間	<講義> ・介護過程における目的・意義・展開を学習する。 ・介護過程とチームアプローチを展開する。 <演習> ・個別援助計画書の作成を実施する。			
	⑭総合生活支援技術演習	10 時間	<演習> ・事例提示 ・こころとからだの力が発揮できない要因の分析 ・適切な支援技術の検討 ・支援技術演習を行い、演習より課題の発見。 ・事例は高齢者 2 事例			
実習		0 時間	なし			
	合計	75 時間				
10 振り返り (4 時間)						
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法			

①振り返り	2 時間	< 講義 > ・研修を通して学んだことと、継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護について要点をまとめる。 < 演習 > ・介護職として重要な視点・姿勢についての要点をグループで討議。
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2 時間	< 講義 > ・研修後も継続的な学習事項があることを理解し、その具体的な内容を紹介するとともに、就業に備えた必要最小限のマナーを説明する。
合計	4 時間	
全カリキュラム合計時間	130 時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること